

平成28年度 学校評価（自己評価）の分析

保護者、教職員、生徒の評価表から

教職員は、学校全体を捉えて評価しており、保護者は、自分の子を通しての評価が中心となり、生徒は自分自身を振り返りながらの評価が中心となることから、A～Dのパーセンテージ分布に多少ずれが生じている評価項目があるが、学校教育の成果として現れている内容を○で、今後、課題が必要な内容を●で表記した。

総括

○ 4段階評価（A→4 B→3 C→2 D→1）における中央値は2.5（最高値4.0～最低値1.0）のところ、評価平均値が3.5を上回る高い結果となった項目は、保護者12/28（+3）、教職員13/28（±0）、生徒12/22（+4）であった。やや高い結果と見なす3.0を上回る項目数では、保護者27/28（±0）、教職員27/28（-1）、生徒22/22（±0）であった。ほとんどの項目でおおむね高評価であったと捉えられる。そして、昨年度よりも保護者と生徒が高い評価をしている割合が多くなった。しかし、保護者、生徒が学校教育に対する少数の意見にも傾聴し、学校運営に活かしていきたいと考える。

※（ ）の中の数値は昨年度からの増減

○ 昨年度からの比較で、1つの質問項目毎の評価が保護者は+0.035ポイント、生徒が+0.08ポイント向上した。

● 同様に、教職員は-0.125ポイント低下している。もっと、生徒一人一人の学力や人間性を向上させ、子どもたちの健全な成長につながるよう教育活動を行っていく必要がある。

主体的に学ぶ生徒	学習指導の充実	No 1, No 2, No 3,
	キャリア教育の推進	No 4, No 5

○ No 1、No 2の生徒の評価が高評価を得ている。また、昨年度よりも評価ポイントが向上している。これは、生徒はステーション学習や普段の授業により、課題を解決する力や自主的に学習に取り組む意識が向上している証であると思われる。

○ No 4、No 5の項目で高い評価が得られている。これは、正しい職業観・勤労観を学び、自分の将来へと向き合うために全校生で拝聴した職業講話や高校説明会、2年生の職場体験学習などを計画的に実施した結果であると思われる。

● 保護者としては、学校の個別的な生徒への対応や子どもが積極的に取り組む姿勢が育まれるように、更に期待していると思われる。

● 教職員としては、生徒が自律した学習習慣を身につけ、課題を解決していく能力を向上させ、主体的に学ぶ生徒を育成するために、授業の質的改善や個別支援体制を工夫しなければならないと考えている。今後、生徒にとって質問しやすい教育環境を整え、毎週水曜日の放課後行われるステーション学習を充実させていく必要がある。

共に高め合う生徒	心の教育の充実	No 6
	社会性の伸長	No 7, No 8, No 9

○ No 6, No 7, No 8, No 9 の保護者の評価が高いことから、保護者としては、学校は、教育活動全般において、思いやりや奉仕の精神、責任感など心の教育や社会性を育てる教育がある程度なされていると評価している。

○ No 9 の「縦割り班の編成でのリーダーシップの発揮」では、小規模校のメリットを生かし、学年の枠を越え、縦割りの班で諸活動に取り組んできたことにより、上級生は集団を良い方向に導こうとする意識が高まっている。また、下級生は上級生の背中から学ぼうとする姿勢が身についたことが高い評価として表れたと考えられる。

● No 6 の「自分や他人の良さに気づく」の評価が低くなっているのは、自分を褒めることが自画自賛や照れの意識になってしまったり、少ない人数の中で人間関係になれてしまい、他人の良いところを褒められない生徒が多いと思われる。今後は、人の欠点を指摘するのではなく、人の良さを認める指導をしていかなければならない。

● No 7 の「校外での福祉、ボランティア活動」では、今年は、小中合同奉仕活動が悪天候のため校外での奉仕活動が実施できなかったため、教職員の評価が低くなったと考えられる。来年度は、是非、小中合同で地域での奉仕活動を実施できればと願っている。

健康で明朗な生徒	健康・安全・防災教育の推進	No 10, No 11, No 12
	体力・運動能力等の向上	No 13, No 14, No 15

○ No 10, No 11 の「健康・安全・防災教育の推進」の項目で高い評価が得られたのは、交通教室や情報教室、性に関する講話など教育課程に位置づけ実施したからであると考えられる。また、今年度は移地区の防災訓練も実施されたことも、高い評価を得られた一つの要因であると考えられる。

○ No 15 の「常設部、特設部の活動を充実させる」では、生徒は目標を持って意欲的に活動し、高い評価を得ている。

● No 12 の「放射線を正しく理解し、自己管理能力を高める放射線教育を充実させる」では、指導する教師が放射線について正しい知識を持ち、生徒の自己管理能力を高める手だてを工夫し納得いく指導をしていく必要がある。そのために、文部科学省や県教育委員会等で発行している放射線に関する資料を効果的に活用し、生徒の発達段階に応じて、放射線に対する自己管理能力を高めさせるよう取り組んでいきたいと思う。

● No 1 3やNo 1 4の「体力・運動能力等の向上」では、保護者や教職員が年間を通じての体力の維持・増進についてある程度高い評価をしているが、生徒は「あまり当てはまらない」という評価を25%程度の生徒がしている。生徒の個人的な運動能力の差や体幹トレーニングに取り組む意欲の違いにより、評価が下がった結果になった。今後は、個別の能力に合わせたトレーニングのメニューを計画し取り組んでいく必要がある。

学校教育の総括的な項目	No 1 6～No 2 8
-------------	---------------

○ No 1 7の「積極的に学校行事に参加」では、生徒の学習の成果を発表する場である校内文化祭「紅葉祭」が、少人数ながらも、生徒のすばらしい企画、運営により、また、保護者の皆様のご協力により、生徒自身が達成感や成就感を味わうことができたことが高い評価の主たる要因かと思われる。

○ No 1 8「常設部に意欲的に参加している」では、部活動を自己実現の場として捉え、一生懸命取り組んできたことが確認できる。

○ No 2 2「長期休業中や放課後に会議室を開放し、学習の場を提供している」は、積極的に会議室を開放し、必要に応じて教師が個別指導を行うなどの対応をしたことから高評価となっている。今後も、個に応じた支援を積極的に行っていきたいと考えている。

○ No 2 5, No 2 6, No 2 7, No 2 8では、保護者と教職員とで高い評価となっているので、今後も、子どもの健全な育成のために、保護者と協力して真摯に学校運営に取り組んでいきたいと思う。

● No 1 6の「楽しく学校に通っている」では、学校は、生徒を健全に成長させる大切な場である。しかし、生徒にDの回答が9.7%あったことは重く受け止めたい。定期的に「学校生活アンケート」により、いじめの有無、不安、悩み事があるか等の調査を実施し、その結果を受けて個別に相談を行い、さらに生徒との共有時間をできるだけ確保し、寄り添う指導そして支援に努めていきたい。また、学校行事等でも、生徒一人ひとりが所属感を感じ、自己有用感が体得できるような取り組みをしていきたいと考えている。

● No 2 0の「学校の授業がわかる（できる）おもしろい（興味を持つ）」では、保護者の25%があまり当てはまらないを選び、生徒の16%があまり当てはまらないを選んでいる。教師の使命は、「生徒に分かる授業、できる授業」を提供することである。この結果を真摯に受け止め、研修に励んでいきたいと考えている。対策として、生徒が学ぶ必要感を感じる課題の設定（なぜ？どうして？できるようになりたい、などの学習意欲を喚起させる）や身の回りの事象を生かした教材に工夫など、生徒が必要感に駆られ、生き生きと学習活動に取り組める授業の実践、授業の質的改善を追究していきたいと考えている。

保護者からの子供たちをどのような姿に育てていきたいかの意見

- 常に目標を高く持ち、実現に向けて努力する力を養ってほしい。(1年)
- 人数が少なくても、これはできるという気持ちを持つことが大事である。他人に優しく、仲良く目標に向かう姿が理想である。(2年)
- 学習面ではできることできない子が出てくると思います。できる子はさらにできるように、できないわからない子にはできるところから教える。決して子供を馬鹿にするような発言をしないで意欲的に取り組めるように工夫してほしい。(2年)
- 人数がいっぱいいる中に入っても、動じない子供にしてほしい。(2年)
- 大きい又は強いものへと立ち向かう姿(2年)
- 努力を恥じない姿(2年)
- 少人数でありながらも、みんなと協力し、自分の意見などが言い合えることが大事であると思う。全学年力を合わせる事が必要だと思う。(3年)
- 声が小さいので、学校でも家庭でも「こんにちは」「こんばんわ」「おはようございます」と恥ずかしがらずに「声かけ運動」などで声を出す習慣を育ててほしい。(3年)
- 子供一人一人に合わせた教育をしてほしい。(3年)